

掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第 17 号—



26 地点の竪穴住居跡から多量の炭化材と土師器が折り重なって出土しました

火災に遭った竪穴住居跡 たてひら ~館平遺跡~

館平遺跡の平成 25 年度の発掘調査において、平安時代の竪穴住居跡から、土師器甕と一緒^{はじきかめ}に、炭化した木材が多量に出土しました。竪穴住居の規模は約 3 × 3 m で、北側にカマドが設けられています。

炭化木材は、住居の上屋材が焼け落ちたものとみられます。木材を分析した結果、コナラ節であると同定されました。土師器甕は、ほぼ完全な形で見つかったものが多く、住居が火災に遭った際にそのまま置かれていったものかもしれません。一方で、同じ時期の竪

穴住居跡からは、土師器甕がカマド周辺からみつかる傾向があり、何らかの意図で完全な形のまま廃棄された可能性もあります。

(次頁につづく)



住居から出土した土師器甕 全体に二次被熱がみられます



新井田川に臨む平安時代のムラ～たてひら館平遺跡～

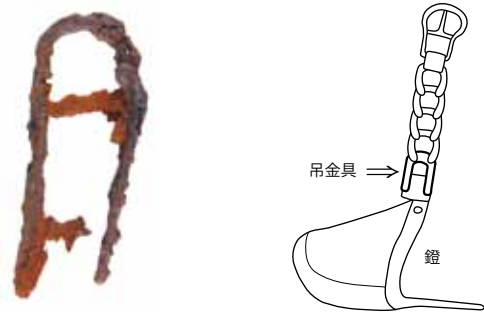
館平遺跡は、八戸市南東部の新井田地区に所在し、新井田川とその支流である松館川が合流する地点に形成された小高い段丘上に立地しています。昭和29・30(1954・55)年に慶應義塾大学の江坂輝彌えさかてるや氏らによる発掘調査が行われました。この調査で出土した貝殻で付けられた文様の土器が白浜式土器と名付けられ、縄文時代早期の標識資料となっています。また、遺跡は根城南部氏の一族である新田にい氏の居城「新田城跡」となっています。

平成25年度は、個人住宅建築に伴う25・26地点と道路改良工事に伴う27地点の3地点を調査しました。

25地点は、遺跡南端の新井田川に向かう緩やかな斜面上に立地し、平安時代とみられる竪穴住居跡4棟・竪穴遺構3棟、中世のものと推定される掘立柱建物跡1棟・溝跡1条・切土整地跡などの遺構が検出されました。

竪穴住居跡は隅丸方形でカマドが設けられおり、ロクロで成形された土師器つぎ環や須恵器かめ甕が出土することから、平安時代に属すると考えられます。また、馬具あぶみの鐙を吊るすための金具かなぐ（「木心金属張三角錐形壺 鐙系吊金具」）が竪穴住居跡の床面から出土しました。

25地点が立地する新井田川沿いの緩斜面では、これまでの調査でも平安時代の竪穴住居



竪穴住居跡から出土した吊金具（左写真）と鐙との接続例（右図） 吊金具：長さ 10.5 cm

吊金具：鞍馬寺蔵鉄製壺鐙実測図（津野仁 2003 「古代の鐙金具について」『栃木の考古学』）を改変

跡がみつかり、本地点と一連のムラを形成していたと思われます。

26地点は、遺跡南東の平坦面に立地し、前頁で触れた平安時代の竪穴住居跡がみつかり、その他、掘立柱建物跡1棟・溝跡1条・溝状土坑1基が検出されました。

27地点は、25地点の東側に隣接し、北東から南西に向かう急斜面地に立地します。調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡や平安時代の土坑、道路状遺構を検出しました。

本地点は雲雀坂（ふんばり坂）と呼ばれ、新田城への往来の道であったとされています。今回の調査でみつかった道路状遺構は、出土遺物から近現代まで使われていたとみられます。新田城へ向かう道路が何度も作りかえられ、最近まで利用されていたようです。（横山 寛剛）



25地点調査風景（写真上を新井田川が流れる）



27地点全景（斜面の上から）

出羽の人々との交流の証^{あかし たものき}～田面木遺跡～

田面木遺跡は、馬淵川右岸の丘陵に立地する遺跡です。東西約 400 m、南北約 800 m と、市内でも規模の大きな遺跡です。これまでに 46 か所で調査を行っており、飛鳥時代から平安時代にかけての大集落であることがわかっています。

今回の調査で平安時代（今から約 1,200 年前）の^{でわがたかめ}竪穴住居跡から「出羽型甕」とよばれる土師器の甕がみつかりました。竪穴住居のなかには、「カマド」とよばれる煮炊きをする場所があります。カマドの近くで発見されたことから、現在の鍋のように火にかけて使われていたと考えられます。

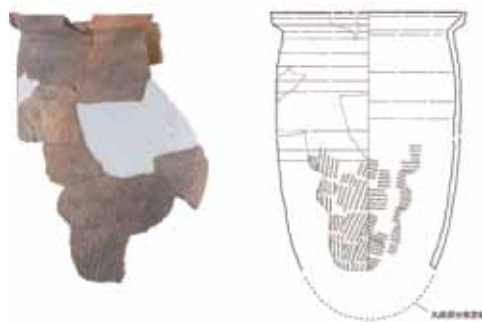
出羽型甕は、北陸地方の影響を受けてつくられており、ロクロを使って製作し、丸底であることが特徴です。秋田県・山形県（出羽地方）で多く出土することから名づけられています。古代の北陸地方では丸底の甕が一般的につくられており、その技術が出羽地方に伝わったと考えられています。また、甕の外^た面には「叩き目」、内^{あぐこん}面には「当て具痕」がみられます。これは、「須恵器^{すえき}」とよばれる朝鮮半島から伝わった土器の製作技法で、成形した土器の内側に当て具をあて、外側から叩き板で叩いて仕上げる技法の痕跡です。田面木遺跡から出土した出羽型甕には、平

行線の叩き目と当て具痕がみられます。

八戸市を含む東北地方の太平洋側では、平底の甕が煮炊きの道具として使われていました。丸底の甕が出土することはほとんどありません。これに対して、東北地方の日本海側では、北陸地方の影響を受けている地域が多く、丸底の甕が使われています。出羽型甕は、八戸市周辺では、奥入瀬川下流域のおいらせ町に所在する中野平遺跡などで数個体出土していますが、珍しい事例です。

田面木遺跡で出羽型甕が発見されたことは、出羽の人々と何らかの交流があったことを物語っています。古代の八戸と周辺地域との交流を考えるうえで、貴重な発見となりました。

（田中 美穂）



出羽型甕の写真（左）と実測図（右）。外面には叩き目、内面には当て具痕がみられます

浅水川流域の古代集落跡^{のどひら}～咽平遺跡～

咽平遺跡は、馬淵川支流の浅水川沿いの丘陵に立地する遺跡です。今回の調査は、道路の幅を広げる工事に伴い実施しました。

東向きの緩やかな斜面に、奈良・平安時代の竪穴住居跡 9 棟、土坑 4 基、縄文時代の陥し穴などがみつかりました。平安時代の竪穴住居跡からは、ふいごの羽口や鉄製品が出土しました。咽平遺跡の周辺には、平安時代の集落跡が多くみつ^かかっています。羽口や鉄滓といった鍛冶関連の遺物の出土が目立つことから、鉄器製作が盛んに行われていたことがわかりました。（田中 美穂）



約 150m の細長い調査区を発掘しました

主殿級の大型掘立柱建物跡を検出～新井田古館遺跡～

新井田古館遺跡は、八戸市南東部新井田地区に位置し、縄文時代・古代・中世・近世の遺構・遺物が検出されています。遺跡の南側には、根城南部氏の一族、新田氏の居城である新田城（館平遺跡）があります。

これまでの調査で、堀や土塁で区画された空間（郭）に多くの掘立柱建物跡や竪穴建物が営まれた中世城館であることがわかっています。城館の年代は、第1期（15世紀）、第2期（15～16世紀）、第3期（17世紀後半以降）の3時期に大きく分けられます。

平成25年度は、アパート建築のために遺跡中央の2地点（28・29地点）の発掘調査を実施し、中近世の掘立柱建物跡・竪穴建物跡・井戸跡・溝跡・土塁のほか、多くの柱穴がみつかりました。

28地点では、過去の調査区からつながる東西20m、南北50m以上の大型掘立柱建物跡が2棟みつかりました。柱穴からは中世の陶磁器や銭貨が出土しており、第2期にあたる15世紀以降の建物です。建物には、九間と呼ばれる3間×3間の部屋がみられます。同様の間取りは根城・一戸城・七戸城など、北東北の南部氏の城館で確認されており、主殿級の建物と推測されます。

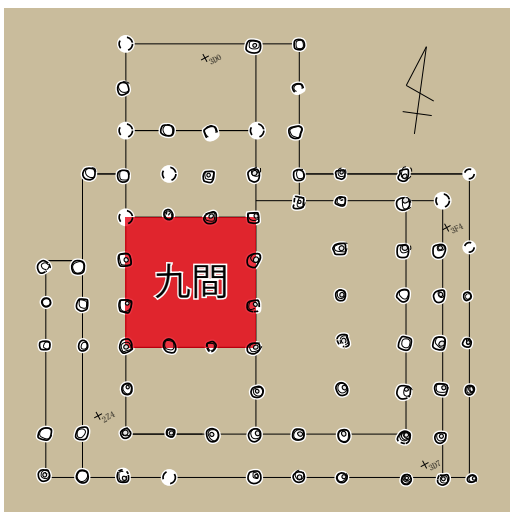
これまで、城館の中心部は東西の区画溝で区画された北側の郭と考えていましたが、今回の調査により、区画溝を埋めて大きな郭として利用する時期があったことがわかりました。

南部氏の城館で確認される主殿級の建物がみつかったことから、本遺跡は南部氏の一族であった新田氏に関わる城館と推測され、丘陵を利用した新田城（館平遺跡）に対する「常の城」であった可能性が考えられます。第2期と第3期の間に断絶があるのは、根城南部氏の遠野移封に伴って新田氏が移住したことによるのかもしれませんが。

遺物は、15～16世紀代の中国産青磁碗、染付皿、瀬戸産陶器天目茶碗、信楽産陶器壺、珠洲産陶器すり鉢、瓦質土器、銭貨などが出土しています。

（船場 昌子）

*常の城（つねのしろ）：戦時の城に対して、日常住む城のこと



みつかった大型掘立柱建物跡
中央の赤い部分が3間×3間の九間にあたります



調査区からは、たくさんの柱穴跡がみつかりました

円筒土器文化期の住居と捨て場を発見～一王寺(1)遺跡～^{いちおうじ}

一王寺(1)遺跡は、新井田川左岸に位置する縄文時代前期・中期の大集落遺跡であり、^{なか}中居遺跡・^{ほった}堀田遺跡とともに、^{これかわせつきじだい}是川石器時代遺跡として国の史跡に指定されています。本遺跡では、平成7年から平成22年にかけて範囲・内容確認の発掘調査が行われています。その結果、前期から中期の^{えんとう}円筒土器文化期に、遺跡南側に竪穴住居跡・土坑・捨て場からなる集落が形成されていることがわかっています。

平成6(1994)年に、^{せいすい}清水寺の墓地造成に伴う試掘調査が行われました。平成25年度に本地点の出土遺物の整理を行い、調査成果を発掘調査報告書にまとめ、刊行しました。調査



床面に深鉢形土器が伏せられた竪穴住居跡

地点は遺跡の南東に位置します。調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居跡2棟と、前期から中期の捨て場が見つかり、本地点が円筒土器文化期の集落の東端にあたることを確認しました。(横山 寛剛)



平成6年の調査地点が、居住域・捨て場の東端にあたります

平成25年度八戸市遺跡調査報告会

平成25年11月16日に、八戸市内の遺跡発掘調査の主な成果を発表する遺跡調査報告会を開催し、約60名の参加がありました。

報告会では、古代の館平遺跡(新井田地区)、中近世の新井田古館遺跡(新井田地区)の調査成果報告のほか、青森県埋蔵文化財調査センターが調査を行った中近世の千石屋敷遺跡(八幡地区)、三沢市教育委員会が調査を行った縄文時代の野口貝塚の特別報告がありました。遺物展示会場では、報告遺跡のほか、25年度に調査を行った遺跡の遺物を展示しました。

遺跡調査報告会の資料は、是川縄文館のホームページに掲載しています。(田中 美穂)



遺物展示会場のようす



これかわ 是川遺跡出土品保存修理事業

平成 23 年、是川遺跡出土品 330 点が、重要文化財に追加指定されました。しかし、指定品の中には、欠損品や脆弱なものが多数残っています。そこで、出土品本来の姿を忠実に再現し、美観を損ねないように補修を行い、脆弱な部分の強化と遺物にあわせた保存台製作を 24 年度から 5 か年計画で実施しています。平成 25 年度は、漆製品など 10 点の修理・台座製作を行いました。

(村木 淳)

木胎漆器の修理



是川遺跡の研究者たち ③喜田貞吉

一王寺 (1) 遺跡の中腹に「是川遺跡」の記念碑があります。昭和 7 年 11 月、八戸郷土研究会により建立されたものです。石碑の下には碑文があり、この文面を草したのが喜田貞吉 (研究会顧問) です。碑文には、是川遺跡は、中居・一王寺・堀田から時代の異なる遺物が出土していると書かれ、現在もこの三地区 (遺跡) を総称して是川遺跡と呼ばれています。それまで、是川に関する発掘調査報告や論文など数多く出されていますが、是川遺跡と書かれている文字はほとんどありません。

喜田は、明治 4 年、徳島県で生まれ、26 年東京帝国大学へ入学し、大正 9 年に京都帝国大学の教授に任命されています。彼が是川遺跡に携わったきっかけは、大正 12 年、八戸高等女学校で「アイヌに就いて」と題して講演を行った後、是川の発掘地を訪れ、多量の石器や土器片を発見したことによります。その後、遺物の実地調査や発掘に立ち会うなど、数多く是川に足を運び、大学研究者の中では最も是川に情熱を持った人物といえます。

昭和 7 年には、図案家の杉山壽榮男とともに「日本石器時代植物性遺物図録」と題し、中居遺跡出土品を中心とした遺物の図録を刊行しています。

喜田が草した碑文の中には、「堀田の遺跡よりは古銭を発見して是が絶対年代を推定する好資料を提供せり」という文言があります。以前から喜田は、東北地方の縄文遺跡からたびたび古銭が出土することから、東北北部では縄文時代の終わりが中世まで続いていたと考えていました。昭和 7 年 7 月、堀田を切り開いて県道を造る際に、竪穴から宋銭 (景德元宝) が出土したことを、自身の考えを立証する資料としたわけです。しかし、この考えを否定したのは、若き考古学者である東北帝国大学の山内清男でした。これが、考古学史上の大論争 (ミネルヴァ論争) となり、白熱した議論が繰り広げられました。

(村木 淳)

特別展・秋季企画展

開催期間 特別展：7月20日（土）～9月2日（月）

秋季企画展：10月12日（土）～11月24日（日）

特別展では、「みみずく土偶と縄文人 - 関東の晩期安行文化 -」を開催しました。この展示は、縄文時代晩期の東北で展開した、是川遺跡に代表される亀ヶ岡文化とその周辺文化を比較することをテーマに企画したもので、亀ヶ岡文化に影響を受けながらも、強い個性をもって育まれた関東の「晩期安行文化」を取り上げました。この文化に特徴的な「みみずく土偶」を中心に、東北ではみられない優品 203 点を展示し、関東のユニークな造形美や東北・関東の地域間での交流関係について紹介しました。また、みみずく土偶のぬり絵を指人形にするコーナーをハンズオン展示として行いました。

秋季企画展では「縄文時代の津軽半島」を開催しました。この展示は、青森県内各地の縄文文化の地域性を紹介する企画です。三方が海に囲まれるなど八戸地域と立地環境が異なる津軽半島を取り上げ、旧石器時代から縄文時代晩期にわたる 235 点の出土品を展示しました。この地域は北海道との交流が盛んで、海を越えて土器や黒曜石などのさまざまな物資や情報がもたらされており、八戸地域とは異なる文化が育まれていました。展示では、こうした文化の営みとともに、塩作りやベンガラ（赤色顔料）生産などについて紹介しました。ハンズオン展示では、日本海沿岸でとれるベンケイガイと、これを素材に作られた腕輪の復元品を、触って腕に付けることができる展示を行いました。

（市川 健夫）



特別展のようす



みみずく土偶（特別展）
※群馬県千網谷遺跡出土



円筒土器（秋季企画展）
※青森県石神遺跡出土 重要文化財

国史跡「是川石器時代遺跡」が追加指定されました

史跡「是川石器時代遺跡」は、中居遺跡・一王寺(1)遺跡・堀田遺跡の3遺跡で構成されています。八戸市では平成7年からこれらの遺跡の範囲・内容確認調査を実施していましたが、一王寺(1)遺跡と堀田遺跡においてその内容が確定したことから、両遺跡の重要な範囲を追加指定するための事務を進めて参りました。この結果を受け、平成25年10月17日付け官報告示（文部科学省告示第147号）により、国史跡「是川石器時代遺跡」の追加指定が決定しました。（小久保 拓也）

※追加指定面積 160,631.71 m²（既指定面積 52,865.03 m² 全体指定面積 213,496.74 m²）



平成 25 年度 八戸市内発掘調査一覧

遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	主な時代
田面木遺跡第 42 地点	試掘調査	個人住宅建築	H25.4.16	35	平安・集落跡
新田遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H25.4.17	14	縄文、奈良・散布地
館平遺跡隣接地	試掘調査	個人住宅建築	H25.4.17	10.5	縄文、平安、中世・集落跡
堀端 (1) 遺跡隣接地	試掘調査	個人住宅建築	H25.4.18	12	縄文、奈良、平安・集落跡
雷遺跡隣接地	試掘調査	住宅建築	H25.4.23	8	縄文、弥生、古代・散布地
殿見遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H25.4.30	18	縄文、古代・散布地・古墳
根城跡岡前館	試掘調査	貸貸住宅建築	H25.4.30	3.5	中世・城館跡
八戸城跡②	試掘調査	店舗兼住宅建築	H25.5.9	4.5	近世・城館跡
三社遺跡	試掘調査	墓地造成	H25.5.24 ~ 5.25	118	縄文・古代・散布地
山内遺跡第 3 地点	試掘調査	宅地分譲	H25.5.29 ~ 5.31、8.2 ~ 8.3	524	古代・集落跡
白蛇遺跡第 1 地点	試掘調査	寺院建築	H25.6.4 ~ 6.20	1,068	古代・集落跡
金屎遺跡	試掘調査	太陽光発電所設置	H25.6.5 ~ 6.20	420	弥生・散布地
田面木遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	H25.6.7	20	縄文、古代・集落跡
沢里山遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H25.6.12	21	縄文、奈良、平安・散布地
石橋遺跡	試掘調査	太陽光発電所設置	H25.6.19 ~ 6.27	726	縄文・散布地
三社遺跡 1 地点	試掘調査	太陽光発電所設置	H25.6.25 ~ 7.31	2,458	縄文・古代・散布地
館平遺跡第 27 地点	試掘調査	道路改良工事	H25.6.28	48	平安、近世・集落跡
酒美平遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H25.7.26	37.5	縄文、古代・集落跡
細越遺跡第 1 地点	試掘調査	個人住宅建築	H25.8.2 ~ 8.3	16	近世・散布地
千石屋敷遺跡第 7 地点	試掘調査	個人住宅建築	H25.8.6	13.5	古代・集落跡
八戸城跡第 30 地点	試掘調査	個人住宅建築	H25.8.6	40	近世・城館跡
上ノ沢遺跡①	試掘調査	福祉施設建設	H25.8.7	9	縄文、奈良、平安・散布地
八戸城跡①	試掘調査	個人住宅建築	H25.8.7	46	近世・城館跡
高陣場 (1) 遺跡	試掘調査	資材置場造成	H25.8.7 ~ 8.28	664	縄文・散布地
松ヶ崎遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H25.8.8 ~ 8.9	26.75	縄文、集落跡
田面木遺跡第 43 地点	試掘調査	宅地分譲	H25.8.20 ~ 8.28	582.5	奈良、平安・集落跡
田面木遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H25.8.27	22.8	縄文、古代・集落跡
咽平遺跡第 3 地点	試掘調査	道路改良工事	H25.9.3 ~ 9.6	120	古代・集落跡
市子林遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H25.9.4	29.42	縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世・散布地、古墳
熊野堂遺跡第 2 地点	試掘調査	範囲内容確認	H25.9.11 ~ 9.14	240.4	古代・集落跡
田面木遺跡第 44 地点	試掘調査	樹木伐採・整地	H25.10.22 ~ 10.29	234	古代・散布地
沢里山遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	H25.11.6	14	縄文、奈良、平安・散布地
田面木遺跡隣接地③	試掘調査	個人住宅建築	H25.11.6	4	古代・集落跡
駒ヶ沢遺跡第 1 地点	試掘調査	範囲内容確認	H25.11.6 ~ 11.15	240	縄文・集落跡
上ノ沢遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	H25.11.19	23.5	縄文、奈良、平安・散布地
八戸城跡第 31 地点	試掘調査	店舗兼住宅建築	H25.11.26	32	近世・城館跡
金浜中渡遺跡	試掘調査	範囲内容確認	H26.3.12 ~ 3.27	900	縄文、古代・散布地
館平遺跡第 25 地点	本調査	個人住宅建築	H25.4.5 ~ 5.2	400	縄文、平安、中世・集落跡
千石屋敷遺跡第 6 地点	試掘・本調査	個人住宅建築	H25.4.23 ~ 4.25、5.8 ~ 5.18	126	中世～近世・集落跡
根城跡下町第 7 地点	試掘・本調査	個人住宅建築	H25.7.9、7.12 ~ 7.31	118	中世・城館跡
館平遺跡第 26 地点	試掘・本調査	個人住宅建築	H25.7.9、7.19 ~ 8.3	107	平安、中世～近世・集落跡
田面木遺跡第 45 地点	試掘・本調査	個人住宅建築	H25.8.1、8.29 ~ 9.5	50	奈良、平安・集落跡
咽平遺跡第 2 地点	試掘・本調査	個人住宅建築	H25.8.2、8.14 ~ 8.24	24.75	奈良・集落跡
田面木遺跡第 46 地点	試掘・本調査	個人住宅建築	H25.8.29、8.30、10.17 ~ 10.26	80	奈良・集落跡
林ノ前遺跡	本調査	自然崩壊	H25.9.12 ~ 10.31	1,348	縄文、平安・集落跡
根城跡岡前館第 57 地点	確認調査	個人住宅建築	H25.4.3 ~ 4.13	40	中世・城館跡
根城跡岡前館第 58 地点	確認調査	住宅解体及び樹木伐採・除根	H25.5.15 ~ 5.23	43.25	中世・城館跡
新井田古館遺跡第 28 地点	本調査	集合住宅建築	H25.4.18 ~ 6.15	2,035	中世・城館跡
新井田古館遺跡第 29 地点	本調査	集合住宅建築	H25.7.2 ~ 8.9	290	中世～近世・城館跡
狼走 (2) 遺跡	本調査	送電鉄塔建設	H25.8.31 ~ 9.13	345	縄文、弥生・散布地
北熊ノ沢 (2) 遺跡	本調査	送電鉄塔建設	H25.9.17 ~ 10.11	304	縄文、平安・集落跡
咽平遺跡第 3 地点	本調査	道路改良工事	H25.9.18 ~ 10.5	405	奈良、平安・集落跡
館平遺跡第 27 地点	本調査	道路改良工事	H25.11.7 ~ 11.21	206	平安、近世・集落跡
八戸城跡	本調査	道路改良工事	H25.11.12 ~ 11.30	43	近世・城館跡



《調査事務局》 (平成 25 年度)

八戸市教育委員会

教育長 伊藤 博章

教育部長 佐藤 浩志

是川縄文館長 小林 和彦

副館長 前田美智子

《埋蔵文化財グループ》

埋蔵文化財 GL 村木 淳

主幹兼社会教育課主幹 渡 則子

主査兼学芸員 杉山 陽亮

主査兼学芸員 船場 昌子

主事兼学芸員 横山 寛剛

主事兼学芸員 田中 美穂

《縄文の里整備推進グループ》

縄文の里整備推進 GL 宇部 則保

副 参 事 大野 亨

主 幹 磯島 康総

主 幹 山野下 貴信

主 査 津久家 崇博

主査兼学芸員 小久保 拓也

主事兼学芸員 市川 健夫

非常勤主事 三浦 賢子

非常勤主事 武山 美郷

非常勤主事 菅澤 早希子

《平成 25 年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書

第 143 集 八戸市内遺跡 31

第 144 集 一王寺(1)遺跡

第 145 集 狼走(2)遺跡

北熊ノ沢(2)遺跡

第 146 集 館平遺跡第 27 地点

咽平遺跡第 3 地点

第 147 集 新井田古館遺跡

第 28 地点

第 148 集 新井田古館遺跡

第 29 地点

掘り day はちのへ 第 17 号

発行年月日 2014 年 6 月 13 日

編集・発行 八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館
〒031-0023

青森県八戸市大字是川字横山 1

TEL 0178 (38) 9511

E-mail jomon@city.hachinohe.aomori.jp

http://www.korekawa-jomon.jp

(是川縄文館ホームページ)

印刷 大東印刷株式会社

印刷部数: 1,000 部 印刷経費: 一部あたり 97.2 円

